

# 年金者組合が「春のつどい」

## 橋爪議員招き



お得意のフラの披露も

16日(日)、全日本年金者組合上越支部は恒例の「春のつどい」を開催し、組合員が元気な姿を確認し合いました。

つどいには、日本共産党議員団の橋爪法一団長が招かれ、スピーチを行いました。

日頃は市政に関する話が多いところ、この日は橋爪議員が執筆している随想シリーズ「春よ来い」についてのスピーチを要請され、「暮らしの中にある“幸せめつけ”を書き続けて」と題して約50分にわたって話をしました。

文章を書くようになった経緯や、「雪椿」「巣立ち」「ベニコブシ」「ひ孫誕生」のエピソードなどが語られ、盛り上がりました。

## 日本共産党上越市議員団ニュース

No.402 2014年3月23日

連絡先  
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)  
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)  
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

# 10日に引き続き またもや



請願趣旨を説明する植木代表

# 市民の願いに背向ける 原発立地自治体並みの安全協定求める請願

## 産建グループ集約試行の延長求める陳情

### 賛成は橋爪団長と石平・近藤両議員

#### 原発の請願を不採択

14日の総務常任委員会では、議案の審査にほかにも、請願・陳情の審査が行われました。請願・陳情とは、市民の皆さんの意見や要望を直接議会に伝え、市政などに反映させる重要な制度です。それだけに、市民の皆さんの切実な思いがこもっているものばかりです。

この日審査された請願は、「つなげよう脱原発の輪 上越の会(植木史将代表)」から提出された、「東京電力との原子力安全協定に関する請願」です。原発のある柏崎市や刈羽村では、原子炉施設の

増設や装置の変更、再稼働などの際には、自治体の事前了解が必要であるとする協定が、東京電力との間で結ばれてい

ます。福島原発の事故の教訓として、原発の周辺の市町村も同様な被害を被る恐れがあることから、上越市も立地市町村並みの協定締結を求めています。というものです。

橋爪議員は、「昨年28日市町村と東電が結んだ」現協定は、協定前から比べれば一歩前進だった。しかし、(請願者が主張するように)事前了解まで踏み込めない。立地自治体並みに協定を(改善)充実することに賛成だ」と採択を主張しました。

これに対して、他の委員からは、「現協定で十分だ」「再稼働の可否の判断をするだけの専門的知見を市で保持することができるのか」といった趣旨の発言があり、採決の結果、賛成3、反対4で不採択となりました。

先週の「ガス水道局談合問題」での百条委員会委設を定める陳情」の不採択に続き、市民の願いに背向ける結果となりました。

#### 陳情も不採択

その後行われた陳情の審査でも、同様な結果となりました。

審査された陳情は、「くびき野地域問題研究会(後藤紀一代表代行)」と「東頸城の明日を考える会(吉野誠一代表)」が提出した、「総合事務所産建建設グループ集約の試行の延長を求める陳情」です。

産建建設グループの集約の試行では、市民にこれまでの試行結果と検証内容が十分伝わっていないこと、大雪の下での検証ができていないことなどを指摘して、試行を続けることを求めるものでした。橋爪議員と近藤議員(市民クラブ)、石平議員(無所属)が採択に賛成しましたが、他の議員は本実施に踏み切ることを認め

め、不採択を主張しました。採決の結果、こちら

も、賛成3、反対4で不採択となりました。橋爪議員は、陳情の審査に先立つ所管事務調査で、個々の事務事業ごとに、「集約化」でどういう検証結果が出ているのかをたどりました。これに対して、行政側は事業ごとには結果を示せず、全体的な評価に終始しました。また、検証できなかった事務事業数も明らかにできませんでした。

今年例年になく少雪とあって、大雪の下での検証はできていないことは明らかです。市長は合併後の除雪体制の充実を強調していますが、産建建設グループの集約という新体制でもうまくいくかどうか問題です。

試行の延長を求める陳情は多くの市民の懸念と願いをまとめたものです。本会議では、多くの議員が採択の意思表示をしてほしいものです。